

畳で街を守る

それは地域と行政の新たな取り組みだった

発行

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」

北 町 区

国土交通省九州地方整備局 延岡河川国道事務所

畳で街を守る

—それは地域と行政の新たな取り組みだった—

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」

北 町 区

国土交通省九州地方整備局 延岡河川国道事務所

はじめに

歴史を語りかける古い遺構はどここの街にもあるものです。
五ヶ瀬川（宮崎県延岡市）の治水施設「たたみてい置堤」も幾歳月も風雨にさらされながら川沿いの風景にとけこんでいました。それは川の流れる町の人々の暮らしの証でもあります。

しかし、こうした古い遺構のなかには、時代の流れとともにその役割を終え、人々に記憶のなかから忘れさられたものも少なくありません。

この本で紹介する「置堤」もまた、古くからこの地域にお住まいの方々以外の記憶からは、その役割について忘れ去られたものでした。

最近の近代的技術や先端の情報化設備の導入は、豊かさを求める人々の暮らしの中では必要不可欠なものです。しかし、ものの豊かさだけでなく、人々の暮らしのなかで生きつづけてきた心の豊かさも、われわれは大切にしていかななくてはならないと考えます。

今回、紹介する「置堤」もその構造や歴史的な記録の重要性もさることながら、地域のみなさんの心の豊かさの象徴として、これからも長く語り継がれることに願いを込めました。この本が少しでも参考になれば幸いです。



城下町延岡と五ヶ瀬川

延岡市は宮崎県の北部に位置し、西に高千穂溪谷、東に日向灘を控える人口約 12 万人の地方都市です。

五ヶ瀬川の源流は宮崎県と熊本県の県境にそびえる向坂山^{むこうざかやま}です。そこより発した川は高千穂、日之影町を経ながら、多くの支流を集めつつ延岡平野へと流れ込みます。さらに延岡市街地に入る直前には分流して五ヶ瀬川と大瀬川となり、市街地を貫流しますが、この二本の川は東の河口付近で再び一つになり、支川の北川、祝子川を合わせて日向灘へ注がれていました。

町は川を中心に形成されています。市街地の南を流れる大瀬川以南を川南地区、片方の五ヶ瀬川以北を川北地区と呼び、大瀬川と五ヶ瀬川の両川に挟まれた真ん中のデルタ地帯が川中地区です。つまり川中地区は輪中のように川に取り囲まれているのです。川中地区の中ほどの小高い山が城山^{じょうし}城址で、頂上から二つの川が見渡せます。

城が築かれたのは 1603 年、最初の城主、高橋元種によるものでした。城を中心に政治、経済、文化が発達しました。現在も城跡の東側は市役所や裁判所等が並ぶ官庁街です。その後大正時代に進出した現在の旭化成によって工業都市となりました。昭和 16 年にはじまった第二次世界大戦で、街は焦土となり、城下町の風情も失われましたが、昔から点在する水神さんは、地域の人々によって大切に守られています。

北町は五ヶ瀬川に沿う細長い通りと横丁からなり、旧城主高橋氏が最初に作った町のひとつです。当時、城の東側に田の字に出来た南町、中町、北町を 3 町といいました。西隣は本小路と呼ばれる武家屋敷の並ぶ通り、北町は城のお膝元にある町人の町、回船問屋や造り酒屋が並ぶ商いの町でした。今は市役所の裏通りの静かな町で、古刹^{こさつ}^{※1}「三福寺」が僅かに昔をしのばせています。

※1 古刹…古い由緒ある寺、古寺。

五ヶ瀬川概要図



目次

はじめに

城下町延岡と五ヶ瀬川

第1章 畳を堤防に使う発想

- 1 「畳堤」とは…………… 1
- 2 どこに設置されていたか…………… 2
- 3 いつ頃造られたのか…………… 3
- 4 「畳堤」のしくみ…………… 5
 - ①どんな畳を使ったのか
 - ②洗練されたデザイン
 - ③しゃれた扇形
 - ④すき間 7cm の意味
 - ⑤高さ 60cm の意味
- 5 なぜこのような工法が考案されたのか…………… 9
 - ①方財町と洪水
 - ②毛なし浜を切ってくれ
- 6 全国の「畳堤」を調べてみれば…………… 13
 - 長良川と揖保川

第2章 始まりは「畳堤」を守る

- 1 「畳堤」保存の動き…………… 15
 - ①きっかけ
 - ②地域活動の芽生え 草取り 治水の歴史を調べる

2	街に新たな風景が生まれた……………	18
①	石積み堤防	
②	モニュメント除幕式	
③	「畳堤プロジェクト」の始動	
3	延岡の「畳堤」が全国にも知られるように……………	21
①	「川の日」ワークショップへの参加	
②	公益社団法人日本河川協会から河川功労者表彰を受賞	
③	国土交通省から水防功労者国土交通大臣賞を受賞	
④	五ヶ瀬川の「畳堤」が土木学会選奨土木遺産を受賞	
⑤	近年の新たな活動	
5	これからの取り組み……………	25
	未来につなごう「畳堤」の教え	
	おわりに 延岡河川国道事務所……………	26
	“防災の心”を学ぶ畳堤を全国発信	
	「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」会長 木原万里子……………	27

資料編

1	聞き取り調査……………	29
2	記録から……………	30
3	対 談……………	30
4	新聞記事……………	31
5	延岡の主な水害……………	33
6	畳堤マップ……………	35

第1章

畳を堤防に使う発想

全国でも珍しい土木治水施設「畳堤」
どうしてこのようなものが延岡にあるのでしょうか。

1. 「畳堤」 とは

「畳堤」は高さ 60cm の橋の高欄^{こうらん}※2 に似たコンクリート製の堤防で、上から見ると幅 7cm の隙間があります。この隙間に畳をすっぽりとはめ込みました。台風などで川の水が堤防を越えて氾濫する前に、畳を立てて洪水を防いだのです。地元の人達は昔から「高欄」と呼んでいましたが、正式な名称は特殊堤防「畳堤」です。



風雨の中で、畳の差し込み作業（想像図）

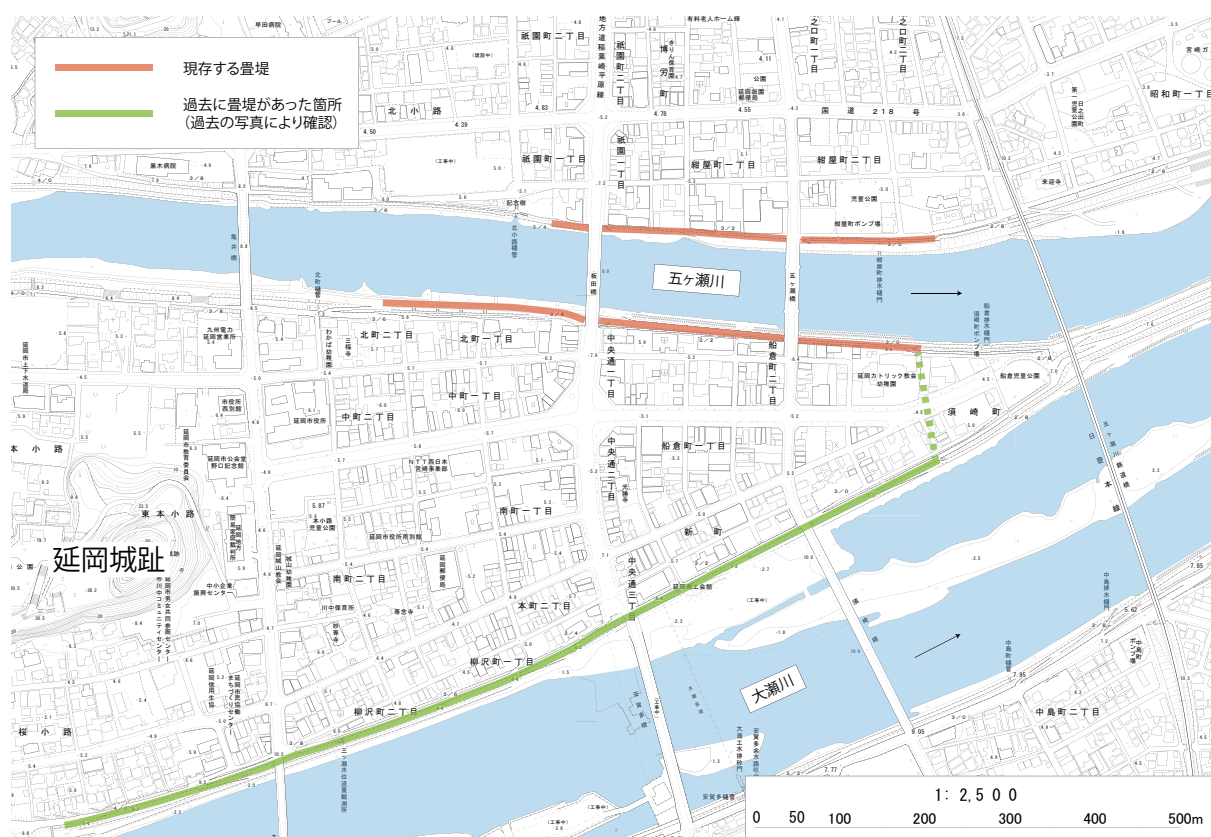
※2 高欄…橋に設置されている手すりのこと

2. どこに設置されていたか

現存している「畳堤」は延岡市街地の「船倉町」「紺屋町」「中央通の一部」「祇園町の一部」「北町」の五ヶ瀬川沿いの堤防です。延べ 980mが今だに残っています。黒ずんだコンクリートの小石が一部露出しているものの、まだしっかり原型を留めています。

昔は大瀬川沿いにも設置されていました。これは、古い頃の写真から明らかになったもので、特に「ふるさとの思い出写真集（明治、大正、昭和）延岡」（図書刊行会発行）の昭和初期の大瀬川の写真に「畳堤」を見ることができます。昔の五ヶ瀬川、大瀬川の両川の「畳堤」は、総延長が 2,000mにおよび、全部に畳をはめ込んだとしたら、約 1,000 枚の畳が必要になります。

畳堤位置図



3. いつ頃造られたのか

五ヶ瀬川の大改修工事は、大正 8 年に五ヶ瀬川が準用河川^{※3} になってから、中小河川改修として宮崎県によっておこなわれてきました。その後、昭和 26 年に国が直接工事や管理を行う河川に編入され現在に至っています。しかし、現在では「畳堤」に関する文献は見あたりません。

このため、一般から資料などを募ったところ「畳堤」堤防の竣工式の写真が寄せられました。ただ、日付が記入されていないため、何年頃のものが不明です。(写真-1 参照)

また、昔唯一の輸送手段だった帆掛け舟の浮かぶ大瀬川の写真が「ふるさとの思い出写真集」に掲載されていますが、この中に川沿いにある「畳堤」を見ることができます。写真の説明文は昭和初期となっています。(写真-2 参照)

また、当時発行されていた地元紙「延岡新聞」の昭和 9 年 4 月 6 日付の、須崎橋竣工の特集記事に、大瀬川左岸の「畳堤」が写されています。(写真-3 参照)

これにより、「畳堤」の設置が昭和初期であることがわかりました。全国に五ヶ瀬川を含めて 3 つの河川に「畳堤」が現存しています。そのなかで五ヶ瀬川の「畳堤」が最も古いと推察されています。



(写真-1) 畳堤竣工式の写真①(提供：甲斐正人さん)

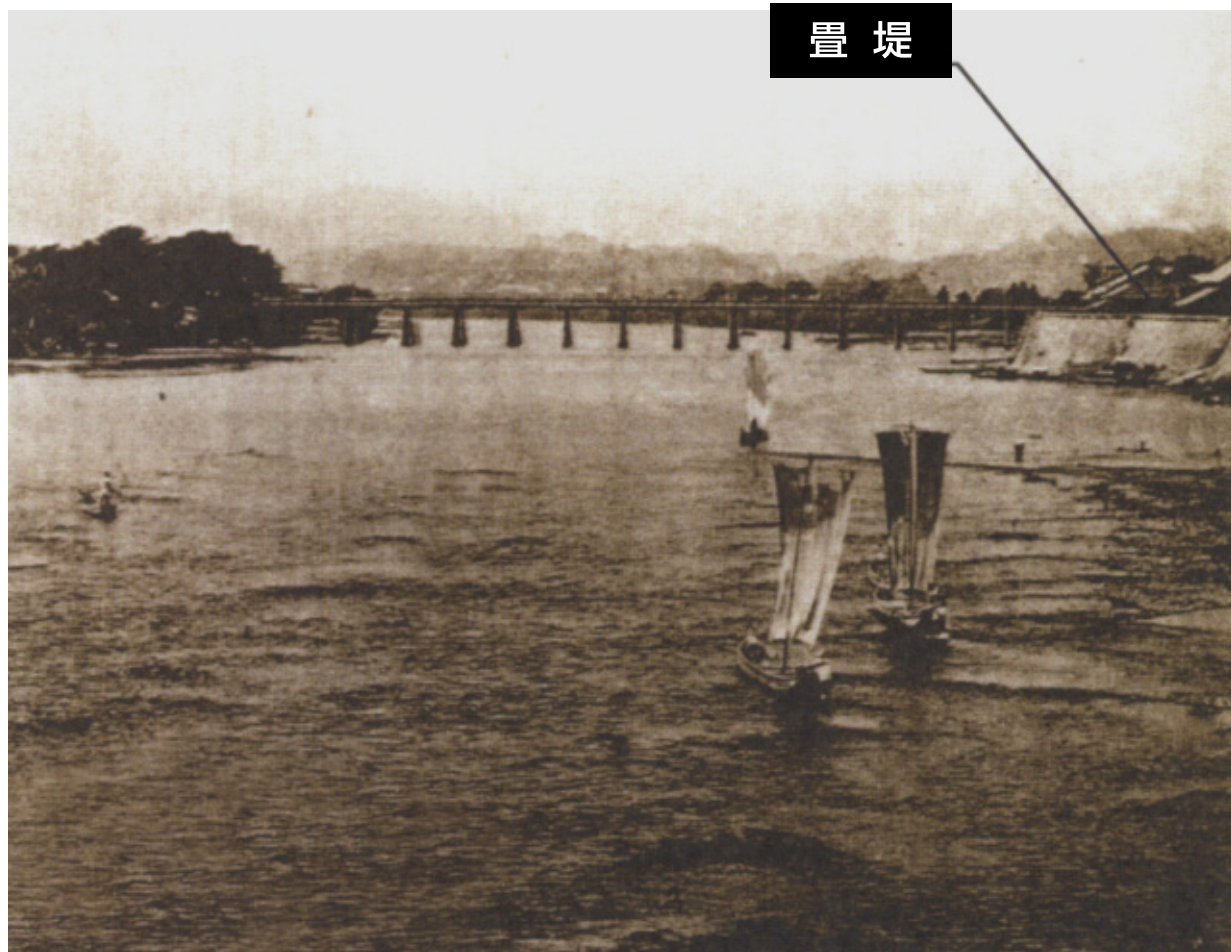


(写真-1) 畳堤竣工式の写真②(提供：甲斐正人さん)

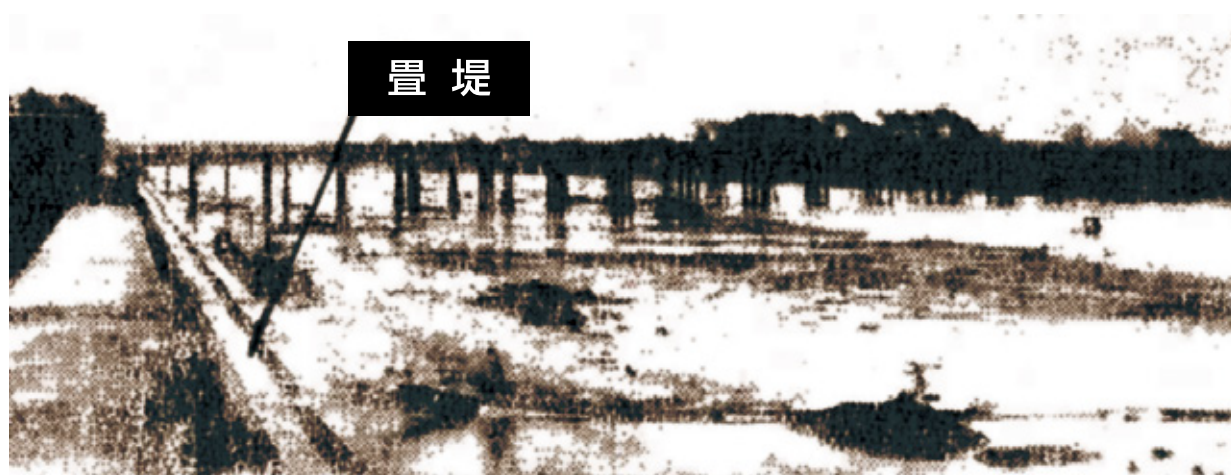


(写真-1) 畳堤竣工式の写真③

※3 準用河川…普通の河川のうち市町村が指定するもので、公共の利害に重要な関係がある河川



(写真-2) 大瀬川 (昭和初期)



(写真-3) 新聞記事の写真

4. 「畳堤」のしくみ

①どんな畳を使ったのか

畳のサイズは、種類によって異なりますが、はたしてどのサイズを「畳堤」に差し込んだのか興味のあるところです。

建築基準により全国都道府県の畳のサイズは4種類に大別されます。

(表 -1 参照) 古い施設であるところから、昔から日本の家庭で使用している本間ではないかと推定しましたが、その期待は外れました。それよりかなり小さいサイズの五八間であることが確認できたのです。

「畳堤」に使用した場合は、かなりの枚数になることを考えて、まず、畳が多く使われる寺や古くからの旅館の畳のサイズに着目し、実際に北町の三福寺の畳を計測したところ、「畳堤」に差し込まれる畳の大きさとは違っていました。そこで、今度は古くからある畳店に聞き取り調査をおこないました。すると、延岡市内の家では昔から五八間がよく利用されていることがわかったのです。市営住宅や一般住宅に使用していたという話から、さっそく五八間を、現存している「畳堤」にはめ込んだところ、寸法がピッタリと合いました。

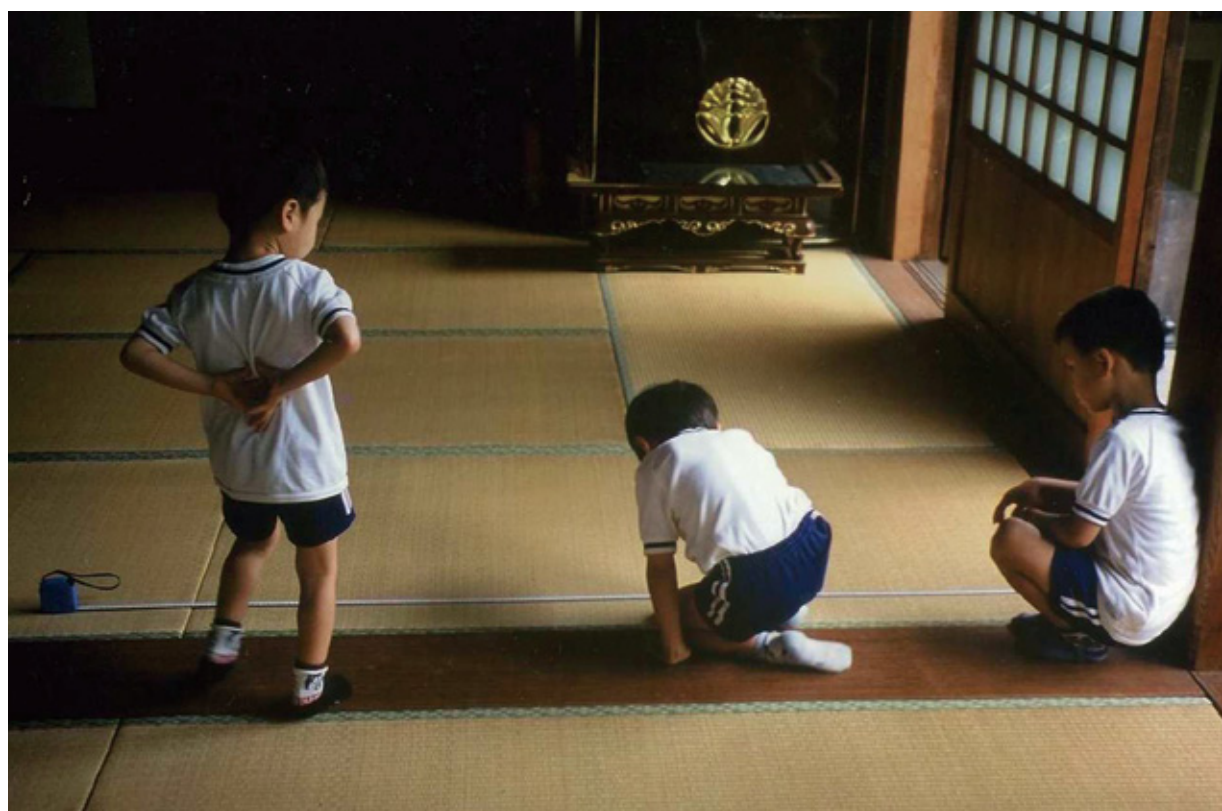
「畳堤」に一般家庭の畳が使われたということは、住民自ら我が家の畳を持ち出して洪水を防いでいたことが考えられます。つまり、住民の知恵と工夫で自分たちの街を守っていたのです。

何かといえば行政にたよりがちな現在(公助)において、住民一人ひとりの防災意識の有り方(自助・協助)を示唆した事例ではないでしょうか。

(表 -1) 畳の規格・名称

名 称	長 さ	幅
五八間（江戸間）	5.8 尺 176 cm	2.9 尺 88 cm
三六間（中京間）	6.0 尺 182 cm	3.0 尺 91 cm
六一間（中京間）	6.1 尺 185 cm	3.05 尺 92 cm
本間（京間、関西間）	6.3 尺 191 cm	3.15 尺 95 cm

※1 尺：30.3 cm



畳寸法調査（三福寺にて）

②洗練されたデザイン

「畳堤」は構造力学的にも優れた構造で、鉄筋コンクリートによるラーメン構造※4をなしています。「畳堤」を差し込んだときの寸法の変化まで計算されており、洪水による水の圧力や畳が水を含んで僅かに厚みが増すことを考慮した構造になっています。

③しゃれた扇形

平常時には橋の高欄のように「畳堤」に空間があけてありますが、この空間から川や街の風景が見通せるようという配慮からこうした形になったのです。しかも、空間の部分が扇型をしている点も注目したいところです。しゃれた和風の感じを出したあたりに豊かな感性が感じられます。また、土木工学的にも非常に高度な技術が尽くされ、洗練された施設です。一般にコンクリート構造物を施工する際、型枠をつくり、流動性の高いコンクリートを流し込み、固めて完成します。ところが、前記の扇型の型枠を組むとなると非常に手間がかかります。当時の構造物としては珍しく、大変貴重な工法によるものです。その意味でも、生きた教材といえるでしょう。

④すき間 7cm の意味

「畳堤」のすき間は 7cm 空けてあります。しかし畳の厚みは約 5 センチで 2cm の余裕があります。これは畳が水を含んだときに膨張することを考慮しているためです。膨張による「畳堤」の破壊と、洪水後の畳の引き抜き作業を考慮して設定されています。

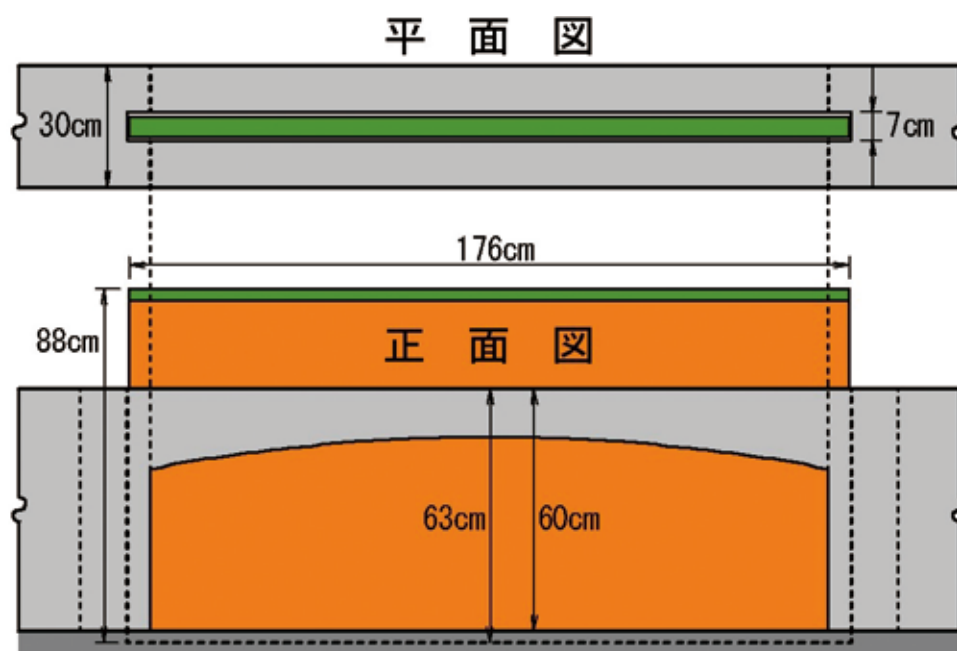
⑤高さ 60cm の意味

畳を横にすると高さが 88 cm ですが、「畳堤」の高さは 60cm しかありません。一般的に洪水を防ぐためには「畳堤」そのものを少しでも高くし、少なくとも 88cm にすることが考えられます。しかし、実際はこのように差し込まれた畳の横幅の 3 分の 2 の高さで固定されています。これは力学的に畳を曲げたときの強度がもっとも効果的な位置にあるためです。つまり幅と高さの関係に重要な意味があるのです。

※4 ラーメン構造…ドイツ語で枠をラーメンという。柱 + 梁構の枠組みの隅角部を固定した構造。



壘堤模型



壘堤詳細図

5. なぜこのような工法が考案されたのか

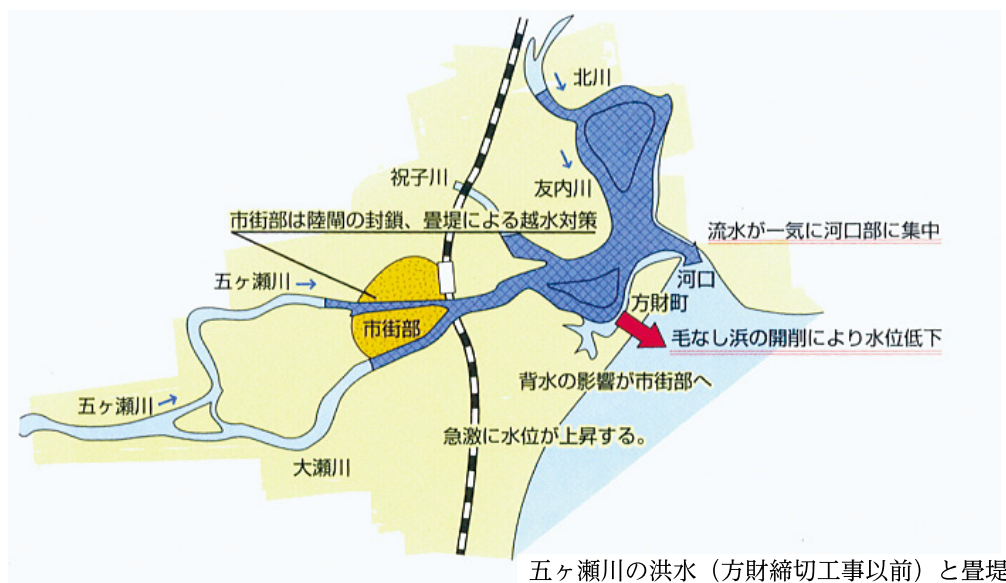
①方財町と洪水

水郷延岡と称されるように延岡市内には五ヶ瀬川、大瀬川、祝子川、北川の四つの大きな川が流れています。五ヶ瀬川の洪水の原因は台風が殆どで「台風性河川」と一般に呼ばれています。

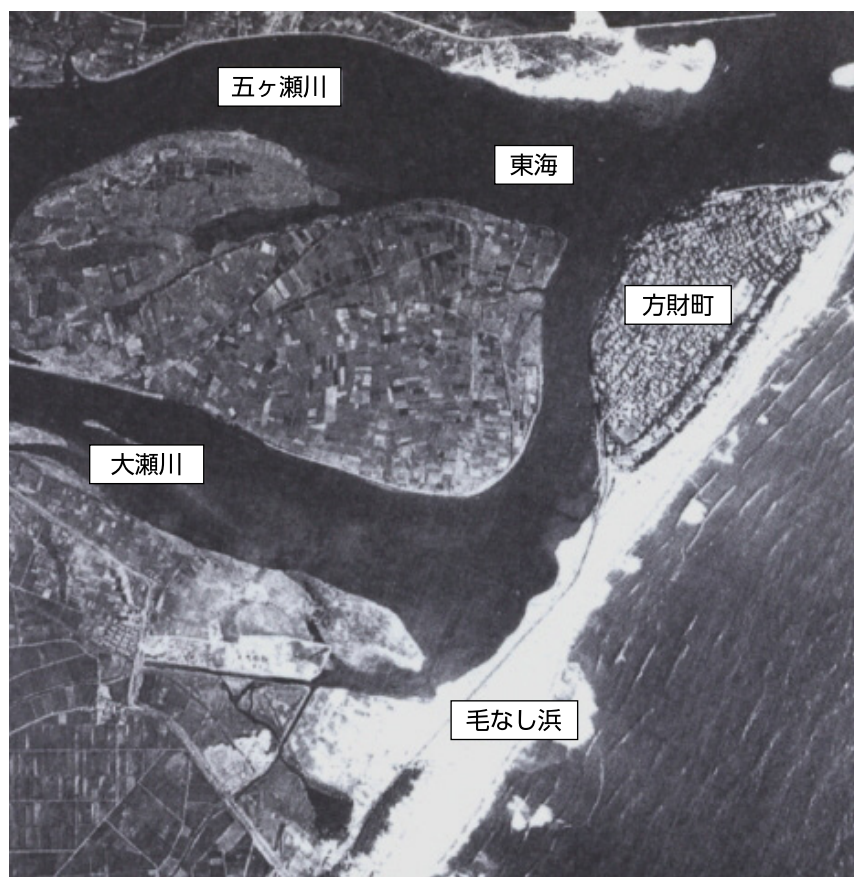
台風が接近すると日向灘の湿った空気が一気に九州山地に吹き寄せて、急激に雲が発生し、豪雨をもたらすために洪水が頻繁に発生します。五ヶ瀬川流域に降った豪雨は一気に延岡市内に流れ込み、大きな被害をたびたび出しています。

延岡市街部の河川氾濫と海際に位置する方財町（大瀬川河口部）とは密接な関係があります。

延岡市内の昔の河川の状況を調べると、大瀬川が方財町附近で北上して、東海町川口で五ヶ瀬川と合流。さらに友内川、北川に合流して日向灘に注いでいました。一度豪雨が降ると、4つの川の水が一気に河口に流れ込みます。しかし、河口が小さいために、流水は膨れ上がり、堰上げ現象^{※5}が発生して、水が逆流し市街地は浸水の危険にさらされたのです。昭和42年から始まった方財締切り工事（昭和44年完成）と鷺島橋の架設により毛なし浜を通る以外のルートが確保されたため、毛なし浜の開削が可能となり、大瀬川は現在のルートを通れるようになりました。



※5 堰上げ現象…流水を止めて、水かさが増す、または逆流する現象



昭和 35 年 7 月大瀬川河口部毛なし浜がつながり、道路が見える



平成 22 年 3 月 大瀬川河口部

②毛なし浜を切ってくれ

昭和 42 年以前は、洪水の時に大瀬川河口の方財町の砂州^{さす}、通称【毛なし浜】を開削しました。つまり膨れ上がった大瀬川の水を、毛なしを切って海に放し、市街地に逆流する河川の水位を下げるための作業がおこなわれたのです。

この作業をする前に、常に市街地と下流の「毛なし浜」のある方財町との駆け引きがありました。上流の人たちからすると一刻も早く開削して欲しいのですが、方財町の住民は、そう簡単には引き受けられませんでした。一度開削すると生活用道路が遮断されて方財町は島となり孤立状態になります。また、人力で水道^{みずみち}を作る開削作業は命がけの作業でした。一気に流れ出した水に消防組の組員が足を取られないよう、命綱をたよりに、水を通したら全速力で後方に引きます。まさに決死の作業だったのです。

こうした市街地と方財町の住民とのやりとりのなかで、市街地の人たちは、はらはししながら膨れあがっていく河川水位の状態を見守っていました。毛なし浜開削を方財町から承諾してもらうまでの僅かな時間が問題だったのです。そこで考案されたのが「豊堤」ではないかと推察されます。

「豊堤」は一時しのぎのために考案されたものです。たしかに「豊堤」の構造では急流河川である五ヶ瀬川に耐え得るものではなく、堰上げた水位から受ける水圧に、長時間耐えることが出来るか疑問が残ります。



川の水が沖に向かってとうとうと流れる光景。 方財きれ港（毛なし浜） 小嶋政一郎作 明治大正延岡百景より



消防組による「毛なし浜」開削（昭和 32 年）



消防組による「毛なし浜」開削（昭和 32 年）

6. 全国の「畳堤」を調べてみれば

他県の「畳堤」について調査したところ、全国に「畳堤」と呼ばれる施設が五ヶ瀬川以外に 2 河川から確認されました。北から岐阜県^{ながら}長良川と兵庫県^{いぼ}龍野市の揖保川です。いずれも形は非常に似ており、高欄風なデザインもほぼ同じです。(写真参照)ただ、扇型のデザインは五ヶ瀬川のみです。

施工された年は、長良川が昭和 11 年、揖保川は昭和 25 年から 30 年です。なお、揖保川の「畳堤」は長良川の「畳堤」を参考にして部分的に改良を加えたものだと記録されています。

「畳堤」が実際使われたのは龍野市の揖保川。といっても一度も洪水には使用されたことはありません。平成 13 年 7 月、同市の水防訓練で畳を「畳堤」に差し込む実演があり、全国向けのテレビでも放送されました。同市では「畳堤」専用の畳を保管するなど積極的に保存活動に取り組んでいます。

3 河川の畳堤の中で、古い写真などから昭和の初めに造られたと推測される五ヶ瀬川の「畳堤」は、日本最初の畳堤と推定されています。

全国の畳堤位置図





岐阜県岐阜市 長良川の豊堤



兵庫県龍野市 揖保川の豊堤

第2章

始まりは「畳堤」を守る

1. 「畳堤」保存の動き

①きっかけ

国土交通省では、情報技術を有効に利用し、より適切に川の管理と、地域住民のみなさまに敏速に情報を提供することを目的にした光ファイバー網の整備を全国的に進めています。

「畳堤」が設置されている地域も、その一環として北川激特事業（H9～H13）にて光ファイバーを設置する工事を実施することになりました。

一般的に地域を洪水から守る堤防は、昔は土を利用して作られていました。これは、もともと治水事業はその地域の方々によって始められ、今のような機械のない時代には、材料の運搬や作業は人力によって行われたためです。現在も基本的に変わっていません。むしろ、近年は、自然や景観などの環境面に対する関心の高まりのなかで、より自然に近い姿が求められています。

このような背景の中で、一定の基準が決められた堤防の中に物を入れることは、洪水時の堤防の安全性に大きな問題があります。特にこの地域（「畳堤」が設置されている）の堤防は、土地の有効な利用により、特例として土より強固な材料（石やコンクリート）を使用し、一般的な堤防より幅が薄い構造で作られており、特に注意が必要でした。そのため、工事を開始する時点で、今ある堤防の上に情報ボックスを作り、光ファイバーを挿入することにしました。

しかし、前章でも説明しましたように、「畳堤」は歴史的背景や景観など、当地域（延岡市北町）のみなさんの生活の中に溶け込んだものとなっています。計画通りに工事を実施すると、景観、利用、安全性、緊急時の避難経路確保など問題が生じるとして、地域の中から問題提起とともに工事内容の変更の要望が示されました。

国土交通省では、地域の声をどれだけ反映できるのか、再度の検討や地域住民の方々との対話に努めました。

このような地域と行政の地道な努力や協力によって「畳堤」を昔に近い姿で保存することが決まりました。



情報ボックスのない頃の豊堤



情報ボックスと豊堤



国土交通省による補修対応（当時の完成予想図）

②地域活動の芽生え

「豊堤」を昔に近い姿で保存する動きの中で地域住民に、変化が芽生えました。地域のシンボルともいえる「豊堤」を守ろうというみんなの意思を、提示し要望したことで、洪水の被害から町を守ろうとした昔の人々の知恵や工夫を見直そうという動きが高まったのです。

草取り

北町の堤防と「豊堤」周辺に生えた雑草取りや清掃を町ぐるみで実施しました。国や行政に要望するばかりではなく、自分たちでできることをやろうという気持ちが「草取り作業」という形となったのです。作業には殆どの家から（所帯数 51 戸）参加がありました。汗を流す作業により、北町住民の気持が一つになりました。この気運は五ヶ瀬川の豊堤を守る会や五ヶ瀬川かわまちづくりを中心に、現在でも続いています。



治水の歴史を調べる

「豊堤」の歴史や由来を調べて再発見しようと調査を始めました。聞き取り調査が中心になったのは、過去の文献や消防の水害記録にも「豊堤」について書かれたものは残されていないことが調査の過程で明らかになったためです。聞き取り調査の他に、昔の新聞記事や写真などを参考にし、古老の話で、「豊堤」が昔は五ヶ瀬川、大瀬川に設置されていたことは確認できました。また、大正生まれの古老から「終戦直後は、豊の代わりに、同じ寸法の板をはめており、北町の水防倉庫に板が保管されていた」という貴重な話を聞くことができました。

調査を行った一人は「『備えあれば憂いなし』を心がけた立派な治水施設です。昔の人の水害への苦勞や工夫がしのべれます。後世にぜひ伝えたい」と語っています。

2. 街に新たな風景が生まれた

①石積み堤防

平成 13 年の堤防改修工事では、昔ながらの古風な自然石を利用しました。現在の堤防の殆どはコンクリートブロックが使用されていますが、石工技術を駆使した石積みにこだわり、「豊堤」との調和を重視したもので、改修部分の大きな特徴になっています。石材は、大分県の臼杵市から産出した凝灰岩を使用しました。

石積み工法は、石工といわれる職人によって石が組み立てられ、積まれる作業で、全て手作業で行われます。現在は石工が減りこうした人を集めることさえ困難になっています。

なお、石積みの堤防は、市内の紺屋町堤防でも、ほぼ同時に工事があり、昔を忍ばせる川岸の風情を再現しています。



石工の巧みな技で自然の石が組み上がる



改修工事施工中の様子



改修工事完成後

②モニュメント除幕式

治水施設の先人の知恵や発想を後世に伝えたい、という趣旨で、モニュメント建設の要望が北町からありました。これは、「豊堤」の歴史調査に取り組んだ結果に生まれたものです。



畳を差し込む実演

国土交通省でも、北町の熱心な取り組みと要望に応じて、モニュメント設置への工事準備に踏み出しました。モニュメントの内容については、北町と国土交通省の共同研究をもとにイラスト、文案を採用することにしました。

モニュメントの除幕式は、北町、国土交通省の合同で行われる事になり、北町では、式の日に合わせて、堤防下の花壇に市の花、カンナの花を植えるなど延岡らしい特色を出して、除幕式の日に備えました。

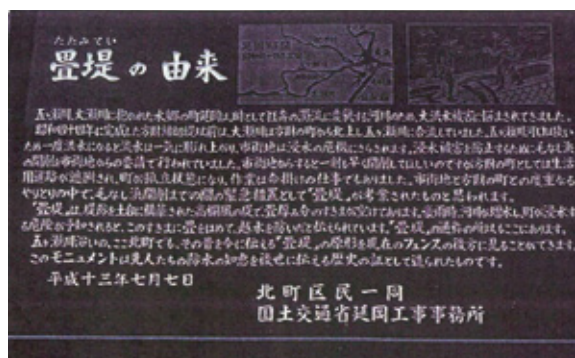
平成 13 年 7 月 7 日、午後 2 時から北町、国土交通省合同の「豊堤」モニュメント除幕式が行われ、多数の関係者が建立を祝いました。

はじめに簡単な「豊堤」の説明があり、未来を担う子供たちの手によってモニュメントの幕が引かれました。

また、実際に「豊堤」に畳を差し込む実演により、当時の様子が再現され、参加者の関心を呼んでいました。



モニュメント除幕式



豊堤モニュメント

③「豊堤プロジェクト」の始動

豊堤の存在する区間の堤防は、昭和初期頃からその役割を果たした現在では老朽化が著しく、補強の必要がありました。また、この区間は、堤防の中が狭いため水防活動もできない状況でした。

堤防を補強するためには「豊堤」を撤去する必要がありましたが、国土交通省は治水施設の先人の知恵や発想を後世に伝えたい住民の想いにこたえるために、堤防補強を行いつつ「豊堤」を保存できないか、と考えました。

そこで、補強後の堤防に「豊堤」を移設して昔に近い姿で保存し、あわせて豊堤沿いに通路を整備して河川巡視や水防活動、防災教育や観光に利用できるように、住民と行政が連携して豊堤周辺のデザインを検討し整備を行う「豊堤プロジェクト」が始動し、地域で合意形成しながら整備が進められました。

豊堤プロジェクトメンバー

- ・学識者
- ・五ヶ瀬川の豊堤を守る会
- ・延岡市区長連絡協議会
- ・一般社団法人延岡観光協会
- ・沿川区長
- ・延岡市
- ・国土交通省
- ・施工業者

豊堤プロジェクトで合意された整備方針

- ・堤防の前面を景観に配慮した石積みで補強
- ・水防活動や日々の河川巡視に必要な管理用の通路幅 3.0m を確保
- ・歴史的遺産である豊堤を移設して保存
- ・利用者の安全を確保するために、転落防止用の柵を設置

整備前



整備後



堤防補強に伴い整備した豊堤散策路

3. 延岡の「豊堤」が全国にも知られるように

「豊堤」の保全活動や防災意識の啓発普及活動は、平成 13 年から設立した「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」を中心に絶え間なく継続され、これまで「豊堤」の存在も知らなかった延岡市民にも今ではその歴史的な貴重さが知られるようになり、先人たちの知恵と地域の防災意識向上のシンボルとして徐々に認識されるようになりました。

このような取組みを通じて、全国的にも延岡の「豊堤」が知られるようになり、「豊堤」やその保存活動が各方面から評価されるようになりました。

①『川の日』ワークショップへの参加

平成 13 年 7 月 14 日、15 日、全国の川および川づくりに取り組んでいる団体または個人を対象に行われている「川の日」ワークショップ(東京)の第 4 回大会に参加。地域住民と行政が合同で発表しました。全国から参加があり、大会では熱い熱戦がくりひろげられました。参加総数 68 チーム。その結果、第一審査(東京オリンピック記念青少年総合センター)、第二審査(明治神宮)を通過して「豊堤」が準グランプリに。こうして全国に延岡の「豊堤」が初めて紹介されました。



第一審査 (東京オリンピック記念青少年総合センター)



表彰式 (明治神宮)

②公益社団法人日本河川協会から河川功労者表彰を受賞

平成 22 年 6 月に、これまでに「豊堤」の調査研究を行い、先人の知恵を今に生かそうと様々な活動を展開してきた「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」が、(社)日本河川協会より、河川功労者として表彰されました。

河川功労者表彰は、全国の河川において、河川文化の発展、水防活動、河川愛護活動等において功労のあった個人、団体に送られる賞です。延岡の「豊堤」や「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」の活動が全国的に広く知られ、高く評価された瞬間でした。

③国土交通省から水防功労者国土交通大臣賞を受賞

平成 26 年 11 月には、同じく「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」が行った、住民自ら町を守ったシンボルである五ヶ瀬川の「豊堤」の調査研究、10 年以上にわたり官民一体の様々な活動、水防に係る広報・啓発活動が水防思想の普及に多大な貢献をしたと評価され、国土交通省から水防功労者国土交通大臣賞を受賞しました。



水防功労者表彰状



水防功労者国土交通大臣賞受賞の祝賀会



表彰状と記念品を持つ木原会長と芝副会長

④五ヶ瀬川の「豊堤」が土木学会選奨土木遺産を受賞

平成 27 年 9 月には、「豊堤」が土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資する「認定制度」を設立する公益社団法人土木学会から高く評価され、選奨土木遺産として選出されました。

土木学会選奨土木遺産の受賞理由として、「豊堤は、長良川、揖保川と五ヶ瀬川にのみ現存する構造物で、特に「五ヶ瀬川に現存する豊堤は、大正末期から昭和初期に設置された我が国最古のもの」（大正末期から昭和初期※昭和 9 年まで確認済み）とされていること。また、五ヶ瀬川の豊堤を守る会による保全活動や防災意識の啓発普及活動も高く評価されたものです。



土木学会選奨土木遺産受賞の記念碑が建てられました

⑤ 近年の新たな活動

様々な賞を受賞した「豊堤」を、さらなる防災意識の啓発に役立てるために、延岡工業高校土木科 3 年 豊堤班の皆さんが、第 16 回九州「川」のワークショップ in 遠賀川（平成 28 年）にて「豊堤 先人たちの知恵を後世に！」と題した漫談を繰り広げ、見事グランプリを受賞するなど、若年層への「豊堤」への関心も高まってきました。

さらに、100 年先の後世に「豊堤」の教えを伝えるために、豊堤の石像制作委員会を立ち上げ、模型デザインの試作を何度も重ねながら、平成 28 年 11 月に豊堤の石像を制作し、五ヶ瀬川の豊堤沿いに設置しました。石像は、豊堤に豊を持ち差し込んでいる人物がデザインされています。この石像制作は、多くの市民の皆さんからの寄付によって完成したものです。



第 16 回九州「川」のワークショップ in 遠賀川にて堂々と発表する高校生



「豊堤」の石像制作委員会による石像デザインの検討



多くの市民の協力により完成した「豊堤」の石像

5. これからの取り組み

未来につなごう「畳堤」の教え

高校生から中学生に、「畳堤」を通じた防災の心のリレー

「畳堤」の教えを未来につなぐために、これまでに地域と行政が取り組んできた様々な活動が、近年、ようやく実を結びつつあります。子供達自身が、「畳堤」を通じて防災意識を高める活動を展開するようになってきたのです。

延岡工業高校土木科による「畳堤」の研究、そしてその成果を高校生自身が漫談形式で楽しく発表し、また、高校生が中学生に「畳堤」の出前授業を行うまでになりました。

「畳堤」の教えを学んだ岡富中学校の生徒たちは、今度は「畳堤」をモチーフにした団技「まちを守れ！畳堤」として体育大会の競技に取り入れ、秋には畳を持ってグラウンドを全力疾走する姿を、彼らの保護者や地域の方々にも披露しています。このような子供達自身の「畳堤」の活動を通じ、他の子供達も畳堤に深く興味を持つようになり、自分たちのまちを誇りに思い、「防災の心」、すなわち、ふるさとを守るために一人一人が力を合わせて行動することの大切さが、後世にバトンタッチされるようになってきました。

市民はもちろん、将来を託す子供達の「畳堤」を通じた防災の心のバトンが今後も受け継がれるためにも、延岡に住む大人の責任として、絶え間ない啓発活動を行っていく必要があります。



子供達に「畳堤」の教えをつなぐ畳堤紙芝居



岡富中学校体育大会の団技「まちを守れ！畳堤」

お わ り に

先人の知恵と地域防災力向上

平成 15 年に発行された「畳で街を守る」の第 2 版発行にあたり、ご協力をいただきました「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」の木原会長様をはじめ、北町区長様や住民の皆様など関係者各位に敬意を表しますとともにお礼を申し上げます。

人々の暮らしは、太古から川を中心として発展してきました。命の源となる水、鮎やウナギといった川の幸など、様々な恩恵を受けてきましたが、長きにわたり洪水による被害も被って来ました。五ヶ瀬川においては、国土交通省が直轄にて管理する発端となった昭和 18 年台風 15 号、また近年でも平成 9 年台風 19 号、平成 17 年台風 14 号と甚大な被害が発生してきました。平成の時代に入り、前述の 2 回の台風被害による「河川激甚災害対策特別緊急事業」により、ある一定規模の水害に対しては洪水を安全に流下させることが出来るようになりました。しかしながら、想定される 100 年に 1 回、また想定し得る最大規模の洪水に対しては、まだまだ整備途上で、今後も長い年月をかけて治水事業を進めていく必要があります。

では、みなさん「水防」という言葉をお聞きになったことはありますか。川を中心とした生活をしてきた人々は、昔から色々な知恵を出して、自分たちの地域を自ら守ってきました。現在でも、洪水が発生した場合、地域の水防団（消防団）の方達が地域の安全のために活動していただいていることは、安全・安心の観点から非常に心強いことです。

今回紹介しました「畳堤」は、五ヶ瀬川の風景にひっそりと佇む施設ですが、その役割は「水防」そのものなのです。洪水の時には地域の各家庭にある畳を自ら持ち寄り、水害を軽減するといった発想は、地域の皆様の知恵が無ければ考え出されず、防災で言われている「自助、共助、公助」の中の自助、共助の原点と言えるものです。

戦後、五ヶ瀬川の堤防がほとんど無かった頃と比較して、私たちの生活は格段に豊かになりましたが、その反面、地域の方々の地域を思う気持ちや住民同士の繋がりが希薄になってきていることも事実です。この本が次世代を担う人たちの地域を思う気持ちや地域防災力の向上、防災のシンボルとしての地位向上につながるひとつの教材となれば幸いです。

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
事務所長 田浦 峰星

“防災の心”を学ぶ畳堤を全国発信

延岡市は約400年前、五ヶ瀬川と大瀬川に囲まれた小高い山に高橋元種が築いた城を中心に政治、経済、文化が発展してきました。いわば川を中心に形成された町です。

日頃、穏やかな川は人々に潤いや豊かさをもたらしますが、一旦大雨や台風が襲来すると甚大な被害をもたらすものとして恐れられてきました。竜神さんを鎮めるため綺麗な庄屋の娘さんが選ばれた等の民話が語り継がれているのは、それほどに川の水の被害が大きかったということなのでしょう。

川の水が人家を襲うのを防ぐために先人の考えた施設が畳堤です。資料が残っておらず、いつ誰がどのようにして造ったのか謎ですが、昭和9年4月4日付けの須崎橋完成記念の新聞記事に畳堤が撮影されており大正末期から昭和初期に造られたものと推測されています。

当時の一般家庭では江戸間の畳が使用されており、川岸の住民が自分の家の畳を持ち出し畳堤に畳を差し込み越水を防いだと伝えられています。畳は一度水を含むと乾いても使用できなくなってしまう。川岸の住民が自分の物を犠牲にして街の人々を守ろうとした地域愛や皆で助け合う心が伝わってきます。

これこそが防災の心です。

畳堤は延岡市の五ヶ瀬川の他に岐阜県岐阜市の長良川と兵庫県龍野市の揖保川に残っていますが、当市の畳堤が一番古いといわれています。

2016年6月「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」会員で、長良川と揖保川の畳堤を視察研修してきました。どの地域も城下町で風光明媚で河川に人家が迫っており河川の氾濫が住民を悩ませ続けた町であることが共通していました。

しかし、他の県の畳堤はごつくて大きく、ガードレールのように見え、五ヶ瀬川の畳堤のような繊細なデザインではありませんでした。

視察して初めて延岡人の芸術的感性の高さと郷土愛の深さを強く感じたところです。



毎年、継続して行われる畳堤清掃活動



畳堤の清掃活動にあわせた散策会

また、昔は勝手に他人の家の畳を持ち出し、洪水を防いでも罪にならなかったというお話を長良川環境レンジャー協会理事長坂井田節さんにお伺いすることができました。それほど洪水が街を襲って、命や財産を奪い、恐れられていたことが分かります。現在でも毎年水害による被害は全国、津々浦々で起こっています。

この会は、2001年に前会長西本師子さんが設立し、2007年から私が引き継ぎ、現在に至っているところです。

畳堤は、市内の一番の繁華街にあり、誰もが手で触れることができます。

皆さまも一度畳堤を見ながら川沿いを歩き、川の風情を肌で感じてみては如何でしょう。きっと懐かしい思い出を呼び起こすことができるに違いありません。

2014年11月には、当会の水防普及活動が認められ国土交通大臣賞をいただきました。

2015年には、畳堤が土木学会選奨土木遺産に認定されました。

2016年11月には、畳堤に畳みを差し込む様子を表現した等身大の石像を多くの方々のご寄附で制作することができました。

この石像制作の一端を担った地元高校生は、畳堤の仕組みや歴史などを勉強し、九州「川」のワークショップにおいてグランプリを、工業技術発表会では最優秀賞を受賞しました。これは大変嬉しく、名誉なことでした。

しかし、延岡市民でも畳堤を知らない人がまだたくさんいます。ましてや国民では知らない人がいるのは当然です。

今後も広報活動に全力で取り組んでいきたいと思っています。

畳堤は、先人が残した貴重な防災遺跡です。これからも大切に守り、次世代へ引き継いでいきます。

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」

会長 木原 万里子



畳堤プロジェクトで整備した畳堤散策路
散策しながら気軽に触れることができました



岡富中学校の生徒達が体育大会で「畳堤」を紹介してくれました

1. 聞き取り調査（平成 11 年）

延岡消防署総務課の紹介で、昭和 21 年から消防署に勤務したＯＢから、話を聞くことができた。

「吉田一さん（当時 80 才）の話」

戦後、河川は建設省の直轄になりましたが、消防関係は昔の名残が残っていて、昭和 21 年頃のことは少し記憶にあります。「畳堤」という呼び名だったか覚えていないが、台風で川の水が増すと、「畳堤」の二ヶ所に支柱を立てて、板を両側にすぽっとはめこむようにして立て、丁度、「畳堤」の高欄を挟んで板を立てる状態にして板と板との間に土のうを詰め込んだのです。支柱や板を直す収納庫が北町や天神小路、亀井神社などにありました。台風がくると消防署の自動車支柱や板を「畳堤」の所に運んだことを覚えています。収納庫はなくなりましたが、「畳堤」はまだ残っています。

「佐藤慶治さん（当時 78 才）の話」

昭和 21 年ころは、延岡は焼け野原で、各地区の消防倉庫は殆ど焼けてしまいました。ただ、東本小路の消防詰所に残っており、使い方を先輩に聞いた覚えがあります。板は堤防の登り口をふさぐためのもので、大きな支柱を立てて、そこに角材を落とす。角材は二重になっていて、その間に土のうや土を詰めるということでした。支柱を支えた跡が今も、残っているはずです。

2. 記録から

昭和 26 年当時の文化人や見識者による「明治、大正、昭和三代に亘る延岡を語る座談会」記録から昭和 18 年には未曾有の大洪水がありましたが、その時、川中地区の区長をされていた向井耕作さんの談話の記録に、「見回りで行った地区で「畳」で水の防御対策をとった」とあります。

3. 対 談

平成 12 年 4 月 16 日 北町役員会 最も高齢の紙田正夫さん(大正 2 年生れ)を囲んで聞いた話をテープに納めた。この中の「洪水時の古い堤防（畳堤）」の部分を抜粋した。

岡 田 氏 (当時 区長)

ところで、北町の古い堤防の上に手すりのような堤があるじゃないですか。あれはいつ頃のものでしょうかね。

紙 田 氏

あそこは、昔はお寺のところに堀があって通れなかったですよ。堤の欄干(「畳堤」)の間が空いているでしょうが。なぜか知っちゃいますか。あれは、洪水の時、水がオーバーするかい、板を嵌めるようになっちゃったですよ。これくらいの厚さのね、これくらいの幅の…。ちょうど空き間にはまる厚さの板でしたですよ。三福寺西の堤防側、今の市の駐車場の所に収納庫があって、そこにはめる板が直してありました。

畳堤

延岡の歴史遺産

川とともに生きた
先人の治水対策

◆◆1◆◆

延岡市の中心部を流れる五ヶ瀬川沿いには、「畳堤（たたみづい）」と呼ばれる、かつての大規模治水施設が残っている。この施設が建設された歴史的背景などを調べていた国土交通省延岡工務事務所は、この「畳堤の建設には大瀬川河口部の開塞現象が関係していた」とする調査結果をまとめた。全国でも極めて珍しい治水手法である畳堤が深く解明されたいと、今後の延岡市の洪水対策の指針になるものと期待されている。調査経緯と、川とともに生きた先人たちの治水対策を紹介する。七日は「川の日」。

斬新なアイデア

畳堤は高さ約六十センチ、幅三十センチのコンクリート製の構造物。延岡市北町や紺屋町、船倉町付近など五ヶ瀬川沿岸の堤防（特殊堤）上の計九百段に現存している。

一見すると橋の高欄（こうらん）や外柵（さく）にも似ており、堤防からうっかり足を踏み外さないために設置されていると勘違いする人もいる。畳堤が何のために存

在していたのかは、地元住民などごく一部の人がしか知られていないのが現状だ。

畳堤のポイントとは中央にある幅七センチほどのすき

まにある。ここに畳を横にして差し込むことで壁を作り、民家への浸水を防いだという。畳の高さはせいぜい九十センチ。果たして効果があったのかどうかは明らかではないが、畳を堤防の代わりに使ったという発想は斬新



（さんしん）だ。

昭和六十一年、建設省延岡工務事務所調査第一課に在職していた川口芳人さん（さんしん）は、この奇抜な形をした構造物に興味を抱いた。

「同僚の職員に訪ねると、畳堤と言って畳を差し込むもの、ただけ聞いた。面白い工法で、デザインも変わっていると思う。しかし、畳堤そのものがなぜ造られたかに

ついては分からないままだった。



延岡市北町の畳堤。実際に畳をはめてみた

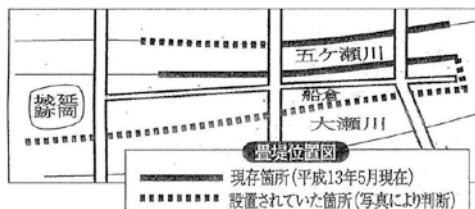
畳を堤防に使う発想

五ヶ瀬川の900メートルに現存

それから十三年がたった昨年夏、畳堤は同事務所が施工した整備によって初めてクローズアップされることになる。

河川管理のための通信回線を収納する情報ボックスが畳堤に沿って設置された。「情報ボックスは美観を損なう上に危険

それから十三年がたった昨年夏、畳堤は同事務所が施工した整備によって初めてクローズアップされることになる。



足を陳謝し、ボックス全体を石積みで覆うことで歩道化し、堤防との間にフェンスを造ることを提案した。

住民との問題は、早急に安全性を確保することで解決した。しかし、「畳堤が実際にいつごろ、どの辺りに、何のために使われたのか。川口所長に十三年前の疑問が残った。

5. 延岡の主な水害

度重なる水害による恐怖

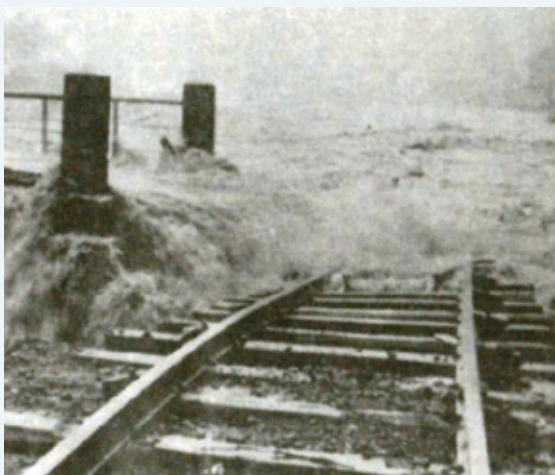
台風が発生すると急激な水位上昇！



昭和 18 年



昭和 18 年 手前に見えるのは置堤



昭和 29 年 五ヶ瀬橋と国鉄日之影線



昭和 29 年 大瀬橋付近



平成 9 年 9 月台風 19 号
北川（延岡市 東海地区）



平成 17 年 9 月台風 14 号

昭和 18 年 9 月……………（台風 15 号）

昭和 29 年 9 月……………（台風 12 号）

昭和 46 年 8 月……………（台風 23 号）

昭和 57 年 8 月……………（台風 13 号）

平成 5 年 8 月……………（台風 7 号）

平成 9 年 9 月……………（台風 19 号）

平成 17 年 9 月……………（台風 14 号）



協 力

延岡市土木課

龍野市建設課

岐阜市土木部

延岡市北町区

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」

柳田定夫さん（石工 北方町）

延岡図書館

延岡市文化課

内藤記念館

延岡新聞社・夕刊ポケット新聞社・夕刊デイリー新聞社 （発行順）

聞き取り

佐 藤 慶 治 さん（延岡消防署OB 旭ヶ丘）

吉 田 一 さん（延岡消防署OB 旭ヶ丘）

紙 田 正 夫 さん（北町）

参考文献・資料

明治、大正、昭和、三代に亘る延岡を語る座談会記録より

火と水の戦い（西村祝一著）

遙かなる幾山河・方財島・延岡百景（小嶋政一郎著）

延岡夜話「延岡の治水」（松田千峽）

延岡の二城（石川恒太郎著）

旅の民族と歴史「河の道」（宮本常一編）

ふるさとの思い出写真集（延岡図書館発行）

城下町と治水（石川恒太郎著）

延岡市史

延岡新聞社・夕刊ポケット新聞・夕刊デイリー新聞 （発行順）

延岡春秋

畳で街を守る

—それは地域と行政の新たな取り組みだった—

発 行 日 初 版 平成 15 年 12 月
 第 2 版 平成 31 年 3 月

企画編集 「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」
 北町区
 国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所

発 行 国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
 宮崎県延岡市大貫町 1 丁目 2889 番地
 電話（0982）31-1155